



## 委 員 会 報 告



## 医療事故防止委員会

### ○設置目的

- 1) 医療事故防止委員会の開催
- 2) 報告されたインシデントについての原因分析、対策の検討、職員への周知
- 3) 医療安全に関する職員研修・指導
- 4) その他、医療安全に関する事項の協議

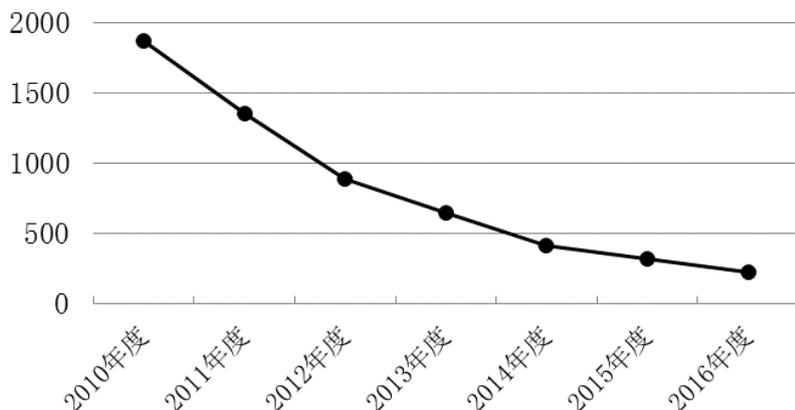
### ○委員構成

委員長（病院長）、副委員長2名、看護部長、事務長、各部署長等

### ○2016年度の活動報告

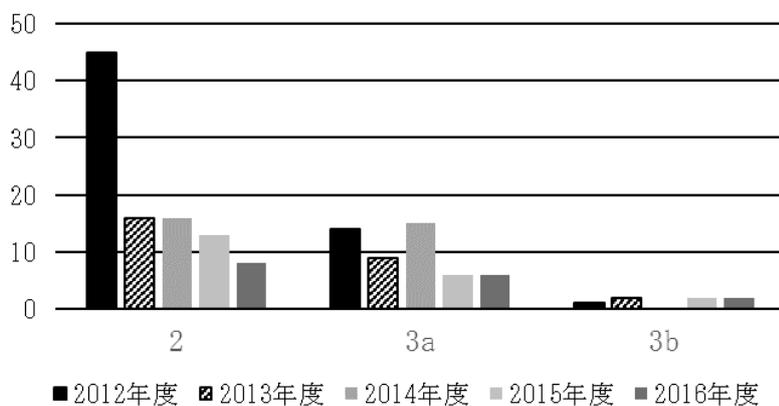
委員会では毎月、委員会の開催日前日までに報告されたインシデント事例1か月分の中から重要事例を採り上げ、部署内での対応・対策を確認、協議し、対策が不十分であれば、あらためてその改善を依頼し、結果を翌月の委員会にて確認した。また、複数部署にかかわる事例では、対応・対策について協議・調整した。

総報告件数の推移



2016年度のインシデントの総報告件数は227件であり、前年度より30%減少した（左図）。

影響度レベル

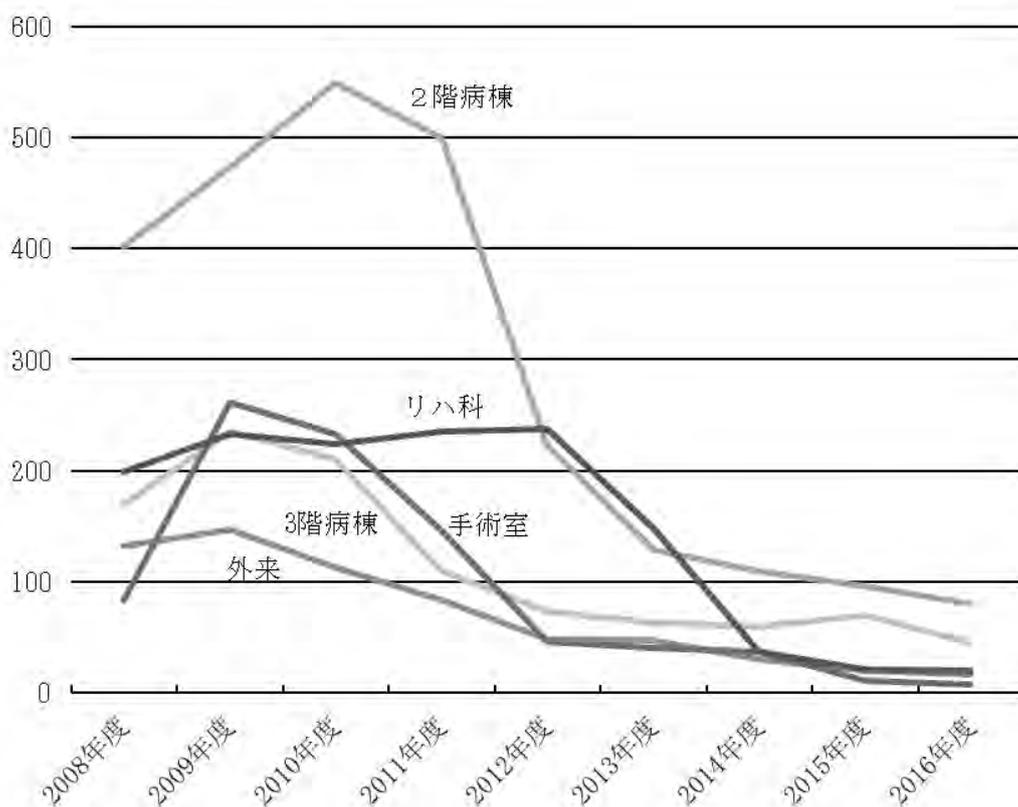


インシデントの影響度は、レベル3b（濃厚な治療を要する（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術入院期間の延長、外来患者の入院、骨折等）が2件、レベル3a（簡単な処置・治療を要する（消毒、湿布、皮膚縫合、鎮痛剤投与等）が6件、レベル2（処置・治療は要しない（バイタルサインの軽度変化、観察強化、検査の必要性）が8件（薬剤関連7件、うちインスリン投与に

関するもの4件）であった（上図）。

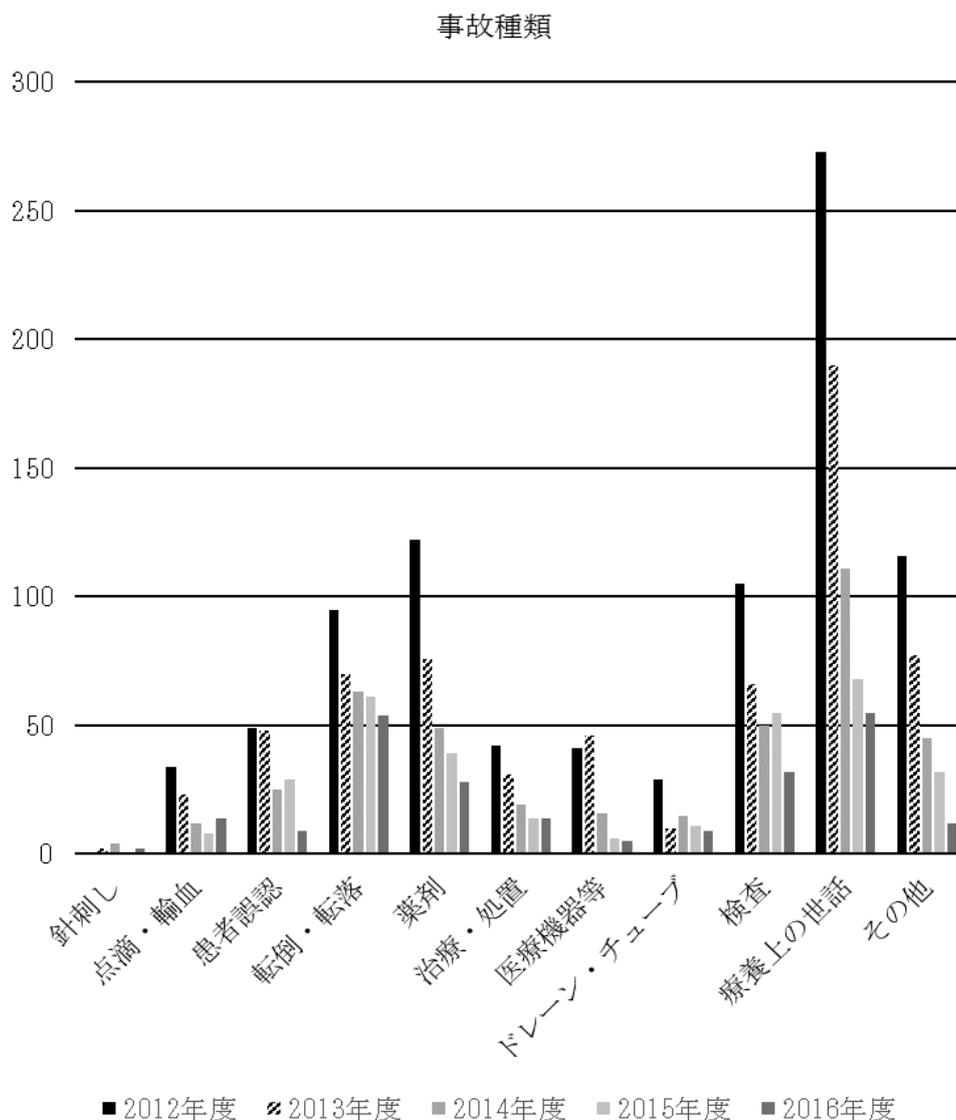
部署別報告数（発生・責任部署ではない）の推移を下表・図に示す。

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
医局	64	73	41	11	8	8	1	1	1
外来	132	147	113	83	48	47	30	20	16
2階病棟	402	474	550	500	223	129	109	96	80
3階病棟	170	235	210	109	73	63	59	70	45
手術室	83	261	233	146	46	40	37	11	7
薬剤科	41	57	68	40	71	53	26	7	6
リハ科	199	233	224	235	238	148	37	21	20
放射線科	48	56	57	37	33	26	15	15	15
臨床検査科	91	64	65	52	39	24	29	23	10
栄養科	169	213	154	49	49	28	28	27	15
医療事務課	48	127	116	72	35	34	23	11	3
地域医療連携室	35	28	22	11	11	16	8	3	0
診療情報管理室					16	22	9	16	7
その他	8	11	13	4	1	4	3	1	2





事故種類別では、昨年度0件だった「針刺し」が2件あり、「点滴・輸血」も増加、「治療・処置」は不変であった。昨年度増加した「患者誤認」、「検査」の2項目を含め、他の項目は減少した（下図）。



教育研修については、以下の通り行われた。

- 1) 医療安全研修会「医療過誤をなくそう！ーヒューマンエラーとダブルチェックの落とし穴についてー」  
(7/22)
- 2) 医療安全講習会「多職種連携ー良いチームの一員になろう」(3/3)



○2017年度の重点目標

2016年度の目標として「各部署の委員がインシデント報告を頻繁に閲覧し、自部署のみならず他部署の報告にも目を通す機会を増やすようにすること」を掲げた。2017年度も同じ目標を掲げる。

○2016年度の委員会開催日

4/15、5/20、6/17、7/15、8/19、9/16、10/21、11/18、12/16、1/20、2/17、3/17（臨時開催なし）

○まとめ

引き続き、とくに「患者誤認」、「薬剤」、「検査」関連のインシデントがゼロになるよう努力する必要がある。



## 感染対策委員会

### ○設置目的

- 1) 院内感染の予防・対策に関する委員会の開催
- 2) 院内感染状況の把握と対策の検討、職員への周知
- 3) 院内感染の研修・教育
- 4) 感染者の統計処理
- 5) 感染性医療廃棄物の処理

### ○委員構成

委員長、副委員長 3 名、委員 23 名

### ○2016 年度の活動報告

1. 早期申し送り時、入院患者の報告を行い全職員に周知し感染に対する意識を高めた
2. 流行期感染症把握、感染委員より申し送り時に伝達し院内感染蔓延防止に努めた
3. MRSA・手指衛生サーベイランス算出
  - ・手指衛生サーベイランス、目標指数を掲げ統計結果の掲示を行った  
(入院患者 1 名に対し 1 日 3 回手指消毒剤を使用)
  - ・感染統計をグラフ化し、掲示する

### 4. 勉強会への参加

#### ①院内感染対策のための対策委員会

5/27 講師:大日本住友製薬 吉田将人氏 (出席 94%、レポート提出 20 名 全体参加率 100%)

#### ②インフルエンザ

1/22 講師:中外製薬株式会社 小塚大輔氏 (出席 78%、レポート提出 21 名 全体参加率 67%)

### 5. 職員教育

- ・新人職員標準予防策、職業予防感染策、針刺し事故について
- ・看護助手の院内感染予防策 (多剤耐性緑膿菌)
- ・グリッターバッグ演習 7/5~7/31 全部署対象

### 6. 職員感染予防対策

- ・インフルエンザ予防接種 (全職員対象 11/14~16 施行 接種率 99%)
- ・インフルエンザワクチン副作用調査、問診の必要性検討
- ・B型肝炎ワクチン使用・接種状況報告
- ・職員健康診断 5 月・11 月施行

### 7. 感染レポート報告 (細菌感受性) 検査部 1 回/月 感受性報告、グループウェア掲載

### 8. 抗菌薬使用状況報告 薬剤部 1 回/月

### 9. 針刺し事故発生把握 2016 年度 2 件 (病棟 1 件、手術室 1 件)



#### 10. サーベイランスへの取り組み

MRSA	次ページ統計参照
インフルエンザ発生状況	職員罹患率 8.4% 患者:2階8名、予防薬投与5名 3階7名、予防薬投与10名
ノロウイルス	患者:2名

#### 11. PPE装着厳守の状況把握（採血・吸引）周知徹底

#### 12. 院内ラウンド報告

- ・院長、薬剤部、検査部、看護師4名にてラウンド。院内感染発生有無・抗菌薬使用状況・他確認を行う
- ・感染委員による毎月1回各部署ラウンドを行い、標準予防策指導、結果フィードバックを行う

#### 13. マニュアル変更・改訂

#### 14. 各部署目標達成・評価

#### 15. 地域連携感染対策合同カンファレンス参加

第1回6/11、第2回8/4、第3回11/10、第4回2/9

#### ○2017年度の重点目標

- 1) 標準予防策を徹底し、感染を抑制する  
手指消毒の徹底、咳嗽時マスクの着用、熱発・嘔吐下痢症状発生時報告を速やかに行う
- 2) 感染発生に適切かつ迅速に対応できる体制を取り、院内感染の蔓延防止に努める
- 3) 院内感染防止対策の状況の把握、指導を行う

#### ○2016年度の委員会開催日

4/12、5/13、6/10、7/8、8/12、9/9、10/14、11/11、12/9、1/3、2/10、3/10

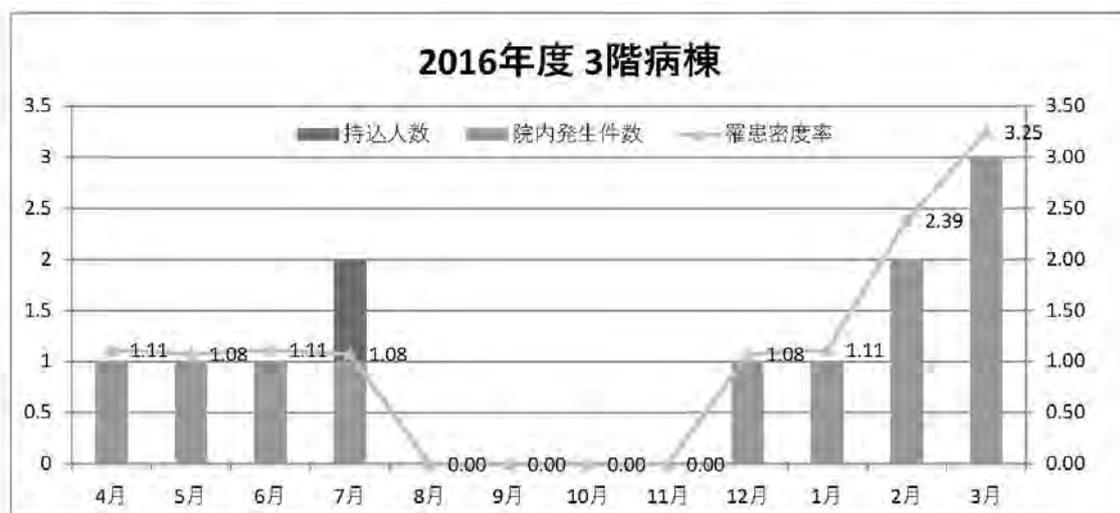
#### ○まとめ

- ・院内感染蔓延防止のため標準予防策を徹底、各部署ごとに、年間目標を掲げ目標達成に向け活動を行った
- ・達成率を毎月報告する事で意識付けが行われ、標準予防策への周知徹底が図れた
- ・インフルエンザ流行期には全職員のマスクの着用、面会制限を行い蔓延防止に努めた
- ・手指消毒剤の使用回数が平均1.6回と目標達成回数には届かなかった。手指消毒は行われているが、使用量の増加に繋がっていない。目標使用量に到達する様に一行為一手洗いの周知徹底、声掛けを行って行きたい

今後も院内感染防止、標準予防策の徹底・感染症の早期発見を目標に頑張っていきたい。

## 2016年度 MRSA感染サーベイランス

2階	院内発生件数	持込人数	延べ入院日数	罹患密度率	3階	院内発生件数	持込人数	延べ入院日数	罹患密度率
4月	1	0	1334	0.75	4月	1	0	897	1.11
5月	1	2	1335	0.75	5月	1	0	927	1.08
6月	1	2	1353	0.74	6月	1	0	899	1.11
7月	2	2	1372	1.46	7月	1	1	929	1.08
8月	1	2	1355	0.74	8月	0	0	929	0.00
9月	0	1	1243	0.00	9月	0	0	899	0.00
10月	1	4	1355	0.74	10月	0	0	918	0.00
11月	4	2	1383	2.89	11月	0	0	903	0.00
12月	3	0	1400	2.14	12月	1	0	930	1.08
1月	2	0	1330	0.00	1月	1	0	899	1.11
2月	0	0	1262	0.00	2月	2	0	838	2.39
3月	0	0	1360	0.00	3月	3	0	923	3.25





## 褥瘡・栄養対策委員会

### ○設置目的

院内褥創対策を討議・検討し、その効率的な推進を図る

### ○委員構成

委員長・副委員長・委員 12名

### ○2016年度の活動報告

「褥創発生の原因分析を行ない褥創発生予防を図る」

#### 1. 報告書の作成による情報の共有

2016年度褥瘡平均発生率:0.34%

発生時の深さ・・・d1～2、発生部位・・・仙骨・尾骨

#### 2. 原因分析に基づく改善点の検討と現場へのフィードバックの徹底

・発生要因・・・不十分な除圧・低栄養・低体重

・NST介入

・各病棟での伝達

#### 3. 予防策の統一

・新しい予防用具の購入の検討

・マニュアルの見直し

#### 4. 処置の統一

・マニュアルの見直し

・現場教育

### ○2017年度の重点目標

「褥創発生の原因分析を行ない褥創発生予防を図る」

#### 1. 予防策の統一

#### 2. ケア技術の向上

#### 3. 医療機器関連圧迫創予防策の統一

#### 4. 原因分析に基づく改善点の検討と現場へのフィードバックの徹底

### ○2016年度の委員会開催日

毎月第2水曜日 4/13、5/18、6/8、7/13、8/10、9/14、10/12、11/9、12/14、1/11、2/8、3/8

### ○まとめ

当院での推定褥瘡発生率は0.2～0.5%で低く推移している。しかし、発生要因のひとつとして『除圧が不十分だったこと』が全ての事例で考えられた。このことから、予防策の見直しとポジショニング技術の更なる向上が課題としてあげられる。今年度は予防策の見直し・徹底とポジショニングをはじめとするケア技術の向上を図り、褥瘡発生0を目指したい。また、医療機器関連圧迫創の予防にも力を入れていきたい。



## 業務改善委員会

### ○設置目的

当院における患者サービスに関する事項、サービス向上のための業務改善、効率化、環境美化及び職員の服装マナーの向上、院内・院外広報に関する事項を推進することを目的とする。

### ○委員構成

委員長 1 名、副委員長 1 名、委員 8 名

### ○2016 年度の活動報告

- 1) 環境美化活動及び患者の入院環境の安全確保(院内ラウンド)
- 2) 意見箱に寄せられた意見の検討
- 3) ゴミの分別に取り組む

### ○2017 年度の重点目標

- 1) 環境美化活動及び患者の入院環境の安全確保(院内ラウンド)
- 2) ごみの分別の周知徹底(リサイクルゴミを増やす)
- 3) 患者サービス(病院に寄せられた意見への対応改善)

### ○2016 年度の委員会開催日

4/15、5/20、6/17、7/15、8/19、9/16、10/21、11/18、12/16、2/24、3/17

### ○まとめ

昨年度は、新病院の設立、改修工事が行われました。週 1 回ラウンドし、施設全体の環境整備、現状維持に努めました。ラウンドでの問題点、要望、改善策を委員会で検討しました。改善案として、外来トイレに荷物置き場がなくドアにかけるタイプのフックを設置しました。ゴミの分別では、感染扱いであったオムツが可燃ゴミとして(経費削減)認められることになりました。引き続きラウンドの強化、ゴミの分別の周知を目標としていきたいと思えます。



## 教育委員会

### ○設置目的

医療事故防止教育、感染対策教育、倫理教育、および職員の質向上のための教育活動を行うことを目的とする。

### ○委員構成

委員長 1 名、副委員長 2 名、委員 23 名

### ○2016 年度の活動報告

開催日	研修会テーマ	
4 月 22 日	酸素の特性と取り扱いの注意点	医療ガス委員会
5 月 27 日	院内感染対策の為の感染症対策	感染委員会
6 月 24 日	MR I の取り扱い／個人情報について	医療機器、個人情報委員会
7 月 22 日	医療過誤をなくそう！	医療事故防止委員会
8 月 19 日	すぐに役立つ経腸栄養のトラブルとその対処	NST 委員会
9 月 23 日	倫理グループワーク	倫理委員会
10 月 14 日	メンタルヘルス対策研修会	労働安全委員会
11 月 18 日	救急対応について	救急委員会
1 月 27 日	インフルエンザ勉強会	感染委員会
3 月 3 日	多職種連携～良いチームの一員になろう～	医療事故防止委員会

### ○2017 年度の重点目標

院内研究発表会を計画に沿って開催運営する。また、部署枠を越えた教育や研修を行い、全職員の知識向上を目標とする

### ○2016 年度の委員会開催日

毎月第 1 金曜 16 時から開催：4/1、5/6、6/3、7/8、8/5、9/2、10/7、11/4、12/2、1/6、2/3、3/3

### ○まとめ

今年度は例年通り必要な研修項目に加え、目標であったメンタルヘルスの研修会も予定通り実施することができた。対人援助職である私たち病院職員が、心も体も健康で業務に取り組めるよう、ストレスに対する考え方や対処法を学べたのは、大変有意義であったと思われる。その他の研修については、「部署ごとで行われているものと重なる点がある」、「同じものが数年続いている」、などの指摘も受けたことから、次年度は内容の再検討も視野に入れて教育計画を立てていきたい。



## NST（栄養サポートチーム）

### ○設置目的

入院患者一人ひとりに必要な栄養の質及び量の摂取（投与）方法について提案し、健康を早く回復できるように支援するチーム医療

### ○スタッフ構成

医師（西宮）、管理栄養士（中村、安部）、薬剤師（尾中）、言語聴覚士（安藤）  
看護師（羽田野、中山、深井、上野、平川）

### ○2016年度の活動報告

- ・毎週水曜日 13：30～ 対象者のカンファレンス及び回診  
（対象者）NST介入患者、SGA評価（B・C・D・Z）患者、  
摂食嚥下障害患者、褥瘡患者、アルブミン値3.0未満の患者、前回様子見患者、  
食事摂取量低下の患者、大幅な体重減少の患者  
（NST介入患者数） 347名（延べ患者数993名）

### ○2017年度の重点目標

- ①対象患者の抽出をスムーズに行い、その患者の栄養状態をアップし、早期退院や社会復帰を助ける
- ②対象患者に対し、適切な栄養管理が行われているかどうかを判断し、最もふさわしい栄養管理が行えるように多職種で患者をみる
- ③NST対象患者で在宅へ戻られる患者については栄養食事指導を行う
- ④NSTの専従を配置できるようにする（NSTの実習に行き単位を取得する）

### ○2016年度の開催日

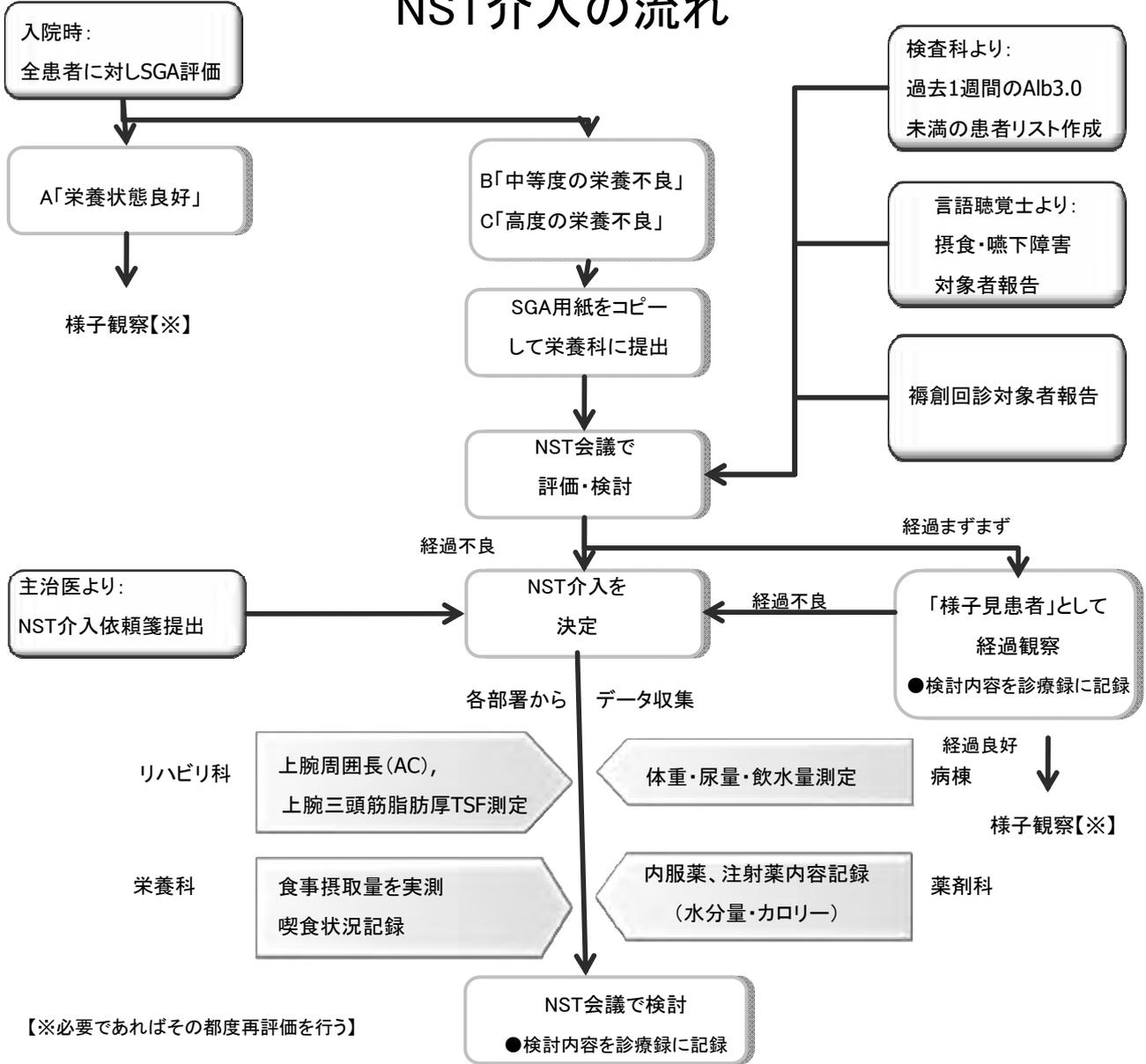
4/27、5/25、6/29、7/27、8/31、9/28、10/26、11/30、12/21、1/25、2/22、3/29

### ○まとめ

全患者に対し入院早期に栄養状態の把握を行い、必要な患者に対してチームが介入し、状態の改善に努めた  
と思います。

# NST介入の流れ

明野中央病院 NST 2008～



## NST会議

毎週火曜日 14:00～

NSTメンバー  
 医師  
 病棟看護師  
 管理栄養士  
 言語聴覚士  
 薬剤師

対象

- ① NST介入患者
- ② 様子見の患者
- ③ 摂食・嚥下障害対象者
- ④ SGA評価B、Cの患者
- ⑤ 褥創回診対象者
- ⑥ 過去1週間のAlb3.0未満の患者



## 糖尿病相談会

### ○設置目的

糖尿病の治療にあたり、本疾患に対する患者自身とその家族における基本的な知識の理解・普及に努める

### ○スタッフ構成

医師（木下院長）、管理栄養士（中村）、薬剤師（尾中）、看護師（羽田野、中山、立石、山瀬）、理学療法士（重村、堀）、臨床検査技師（今永）

### ○2016年度の活動報告

#### ①第40回糖尿病相談会 テーマ「上手な食事療法について 食べて、レシピを学ぶ」

開催日：2016年8月20日（土） 場所：会議室 参加人数：5名

開催目的：ふだん敬遠されている揚げ物（からあげ定食）の糖尿食の実試食会を開催し、工夫することで低カロリーでも美味しく、かつボリューム感のある食事にするができることを体験してもらうと同時に、食事療法への理解を高める

#### ②第41回糖尿病相談会 テーマ「フットケアについて」

開催日：2016年11月26日（土） 場所：3病棟リハビリ室 参加人数：9名

開催目的：糖尿病足病変（潰瘍や壊疽）の発症・進展を阻止するための検査について学び、自分の足の状態を把握し、合併症について理解する

#### ③第42回糖尿病相談会 テーマ「自分の食後血糖を知ろう ケンタッキーフライドチキンVS食パン」

開催日：2017年3月25日（土） 場所：会議室 参加人数：5名

開催目的：炭水化物中心のメニューと脂質中心のメニューでは血糖値がどのように変化するかを実際に体験していただき、食事療法の理解を深める

#### ④クリニカルパスの実施 0件

### ○2017年度の重点目標

①糖尿病に対する基礎知識の理解及び普及

②糖尿病相談会の年3回以上の開催

### ○2016年度の開催日

4/4、5/9、6/6、7/11、8/8、9/5、10/3、11/7、12/5、1/16、2/6、3/13

### ○まとめ

2016年度は年3回の開催となりましたが、患者体験型の相談会を企画してみました。すこしでも地域の糖尿病患者さんの治療にお役に立てれば幸いです。

## 静脈血栓塞栓症（VTE）対策チーム

### ○設置目的

2012年10月、医師、看護師、リハビリテーションスタッフ、臨床検査技師からなる「VTE対策チーム」を組織し、以来ハイリスクの入院患者を対象に毎週回診を行いながらVTE対策に取り組んでいる。

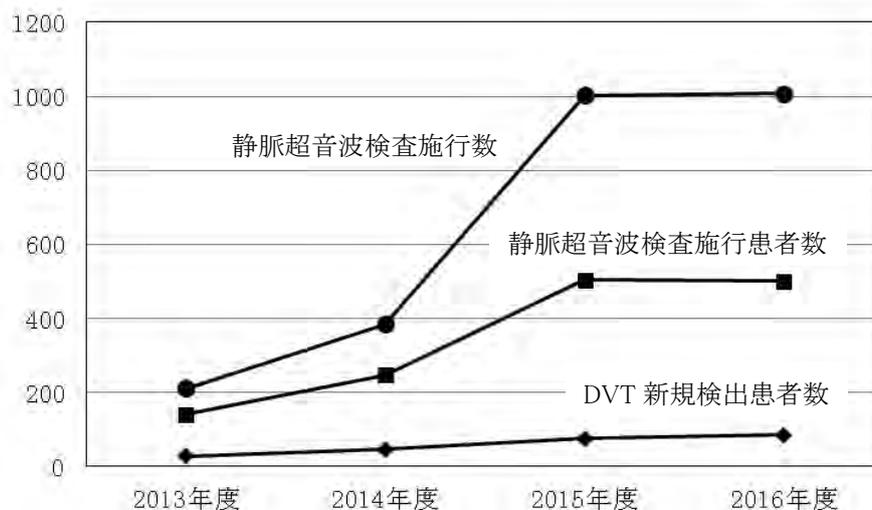
### ○スタッフ構成

医師1名、看護部長、各病棟看護師・リハビリテーションスタッフ（数名ずつ）、臨床検査技師1名

### ○2016年度の活動報告

回診対象患者は566名（整形外科489名、内科77名）、静脈超音波検査施行患者は500名、同検査施行数は1007件、深部静脈血栓（DVT）新規検出患者は85名であった。症候性VTEの発症例はなく、下大静脈フィルタの適応症例は1例であった。

静脈超音波検査施行患者数、同検査施行数、DVT新規検出患者数の年次推移を下図に示す。



### ○2017年度の重点目標

- 1) 入院時のリスク評価を正確に行う
- 2) 有効かつ無駄のない予防策を確立する
- 3) 予防策の変更・中止の判断を遅滞なく行う

### ○まとめ

発足からの5年を総括しながら、より効率的な静脈血栓塞栓症対策を確立していく必要がある。



## 親和会（厚生会）

### ○設置目的

親和会は会員同士の親睦と福利の充実を図るとともに、明野中央病院の発展に寄与することを目的とする。

### ○親和会スタッフ構成

会長 1 名、副会長 2 名、会計 1 名、会計監査 1 名、役員 11 名

### ○総会

- ・総会は通常総会と臨時総会の 2 種類とする。
- ・通常総会は、毎年 3 月末に病院総会に合わせて行われる。
- ・臨時総会は、会長が必要を認めた時、又は会員 3 分の 1 以上の要求があった時、随時開催する。
- ・議長は会長が行う。
- ・総会は会員の過半数をもって成立する。ただし、委任状出席を認めるとする。

### ○会計

- ・収入 ①会費 ②寄付金 ③その他（必要に応じて臨時総会費を徴収することもある。）
- ・支出 ①職員旅行 ②レクリエーション活動 ③忘年会 ④慶弔見舞金 ⑤その他
- ・会計年度は毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。
- ・会計報告は毎年 3 月の通常総会で行う。

### ○2016 年度 活動報告

4 月 8 日 親睦会

場所：オロチと柵

6 月 17 日 ボーリング大会

場所：OBS ボール



12月2日 忘年会

場所：オアシスタワー



2016年度は計3回親和会の活動を実施した。

○2017年度の重点目標

病院の引越し、電子カルテの導入も落ち着いてきた。そのため、数年実施できていなかった院内旅行を計画する。

○まとめ

親和会が中心となり企画の遂行ができた。2016年は病院の引越しや電子カルテの導入などがあり、親和会の活動が積極的に行えなかったが、その中でも簡単なイベントを企画できれば良かったと感じた。



明野中央病院

**明野中央病院  
新病院第二期工事完成**

明野中央病院（木下昭生院長）は、昨年9月より新病院の増改築工事を行っていたが、6月29日に第一期工事が完成した。

従来の第2駐車場に新たに建物を建設し、診察室、検査室、CT・MRI室、手術室、病室など病院機能のほとんどを新病院に移転した。7月4日より新病院での診察を行っている。

今後は旧病棟の解体、駐車場の整備などを行い、来年3月に全ての工事が終了する予定。木下院長は、「患者の皆様、ご近所の方々には工事でご迷惑をおかけし

ております。来年3月には念願の新病院が完成します。今後とも明野の皆様健康づくりに少しでもお役に立てるよう職員一同取り組んで参ります」と話していた。

**明野中央病院  
ふれあい看護師体験学習**

明野中央病院（木下昭生院長）は、5月14日高校生ふれあい看護師体験学習を行った。

ふれあい看護師体験学習には大分鶴崎高校、大分雄城台高校、情報科学高校から男女7名が参加し、木下院長より委嘱の後、看護師体験では、検温・足浴、車椅子輸送体験、また緊急蘇生体

**明野中央病院  
ふれあい看護師体験学習**

験では心臓マッサージ、AEDの使い方等の体験をし、手術室では手術前の手洗い、手術器具の取り扱い方の学習が行われた。

参加した生徒は「看護師の皆さんの仕事がとても大変な事がよく分かりました。今日の体験学習で学んだ事を参考に、看護師をこれから先

の進路の一つとして選択していきたくです」と話していた。

またある生徒は「今日の看護師体験学習を活かし、将来看護師を目指して頑張ります」と話す生徒もいた。



手術用器具の説明を聞く参加者



## 明野中央病院 職場体験学習

九月二十五日、明野中央病院で職場体験学習が行われ、今回は大分県立大東中学校三年生の生徒八名が参加しました。これは、病院内の色々な職種を見学し、触れ合いながら、そ



の中で将来自分な人の仕事を目標としていくのかを考えるのです。きつかけにしてほ



この日は、クする作業などを体験しました。手術室の他に、リハビリ室や検査室の見学も行い、生徒達は真剣に説明を聞いて学習し、道具などをバツ



体験学習を終えて、大東中学校二年生の伊東由衣加さんは、「手術室やMRIの部屋に入る事など、日頃あまり体験できない事が出来てとても良い経験になりました」と話した。

大分団地新聞社

## 大東中学校 明野中央病院で職場体験学習



明野中央病院（木下昭生院長）で9月14日と15日の2日間、職場体験学習が行われ、大東中学校の女子生徒8名が参加した。

職場体験学習に参加した学生は、看護師の方々から看護の仕方の説明を受けたたり、血圧体験では血圧計の仕組みや計り方等の説明を聞いた後実際に血圧計で血圧を

計った。生徒は「血圧が高くても低くても体に影響がある事が良く分かりました」と話していた。

病棟では、各患者さんの手足の洗い方を学び、食事は患者さんによってメニューが違い、「食事療法も大切な事と良く分かりました」と話していた。

参加した生徒は「これから年配の方々が多くなることを思うと、看護師の仕事が将来役立つと考え、看護師になりたいと思います、今日の体験学習に参加しました」と話していた。

木下昭生院長は、「今日の職場体験学習で良く勉強し、是非看護師になつて下さい」と話していた。

写真 血圧測定の実験をしている生徒

明野タイムズ



**旭町防災訓練**

旭町防災訓練は、今年  
のテーマは『向こう三軒  
両隣』トライアングル  
連絡網を迅速の避難を  
行う事』を目標に行われ  
た。避難場所の野中公園  
には約300名が集ま  
り、明野中央病院の中村  
副院長や看護師等約10  
名がAEDによる心肺  
蘇生法と救急法の実技  
と使い方の説明が行われ  
た。また消火器で実際に  
消火訓練も行われた。

小柳義明自主防災会  
会長は「災害はいつ起き  
るか分かりません。今日  
の防災訓練を生かして災  
害時に役立てて下さい」と  
話していた。

また、毎年好評の新鮮  
野菜の即売と、子ども会  
の協力でフリーマーケット  
もあり大盛況だった。

明野タイムズ

**明野中央病院**  
**第9回新春落語寄席**



明野中央病院(木下昭  
生院長)は、県南落語組  
合の協力で、1月14日病  
院会議室で第9回新春  
落語寄席を行った。

木下昭生院長は、「笑  
う事は健康に一番良い事  
です。今日は県南落語寄  
席で大いに笑って下さ  
い」と挨拶し、新春落語  
が行われた。

落語は県南落語組合  
「寿限無」(大分市部)の  
3名によって行われ、三  
浦大和さんの「与次郎」、  
山田貴乙さんの「目薬」、  
森田年洋さんの「紙入  
れ」で、見事な落語に会  
場から惜しみない声援  
が送られていた。

入院患者さん達は「い  
つもはベッドの上でラジ  
オを聞いたりテレビを見  
ていますが、今日は落語  
を生で聞き、最近なかつ  
た大きな声で笑う事が  
出来ました」と大変喜ん  
でいた。

明野タイムズ

## 大分市の石橋さん手作り、寄贈

# 機関車の雄姿 模型に

大分市明野南の石橋龍二さん(92)は、旧満州で活躍した蒸気機関車の模型を明野中央病院(同市)に寄贈した。「記憶の中の雄姿を形にして残したい」と本物の設計図を基に、10年かけて作り上げた。増改築を終えて新しくなった病院の玄関ロビーに展示されており、来院者らを出迎えている。



明野中央病院に自作したパシナ形蒸気機関車の模型を寄贈した石橋龍二さん(前列右)と木下昭生院長、中村英次郎副院長ら＝大分市

1990年代にコッソツと制作してきたという模型は「パシナ形蒸気機関車」。1934〜43年に南満州鉄道(満鉄)の特急「あじあ号」

をけん引し、大連―新京間を最高時速130キロで走破した。鮮やかなブルーの流線形デザインが特徴だったという。「実際に走るパシナの美しさ、かつこよさが今も脳裏に焼きついている」と懐かしむ。

石橋さんは14歳で満蒙開拓青少年義勇軍として大陸に渡った。3年後に任期を終え、そのまま満鉄へ。技術員養成学校に通っていた20歳の時に従軍し、2年間のシベリア抑留を経て復員した。設計図は技術員養成学校時代に教科書として使っていたもの。出征の際、荷物に忍ばせて熊本県の実家に送り、大切に保管し

## 10年かけ細部まで忠実

明野中央病院に  
中野展  
央示

てきた。

模型は全長1・2メートル。実物の20分の1スケールに縮小し、自分で図面を引き直した。100を超える部品は建具店から譲り受けた鉄や銅、アルミといった廃材を使い、すべて手作り。運転室や汽笛、給炭装置など細部まで忠実に再現している。設計図にない部分は、パシナの実物が展示されていた中国・瀋陽まで行って確認した。納得いくまで何十回も作り直したという。

2001年に完成後は、自宅に置いていたが、診療で訪れた鉄道好きの中村英次郎副院長の目に留まった。精巧な作りを絶賛された石橋さんは設計図とともに寄贈することにした。

模型の行き先表示板には「明野中央病院2017-3」の文字。「みんなに見てもらい、命が吹き込まれたよう。パシナも喜んでいきますよ」。柔らかな口差しを浴びる模型に目をやり、ほほ笑んだ。

(藤沢香)



## 入職 1 年を振り返って

○看護部 手術室 平山佳奈

この1年を振り返ってみると、最初は仕事の内容も何もわからずただ戸惑うばかりで、指示されてからしか動くことができませんでしたが、徐々に仕事にも慣れ、自分で考えて行動することができるようになったと思います。学生から社会人となり、働くことの大変さを知らずまだ甘さの残る中で、正直辞めたいと何度も思う事もありました。ですが、家族や上司の方、知人などたくさんの人達に支えられ、頑張ることができ、また成長することもできました。患者さんと直接関わることがなく、ただ淡々とこなすだけの仕事でしたが、一度だけ患者さんに「ありがとう」と言われたことがあります。その時この仕事をしていてよかったなど強く感じました。2年目は昨年よりこなせる仕事を増やし、周りから頼られるような存在になりたいです。そして、自分の仕事に責任を持ち、初心を忘れずしっかりとがんばっていきたいと思います。

## 入職 5 年を振り返って

○ハビリテーション科 工藤あずさ

明野中央病院に入職して5年が過ぎました。社会人1年目の入社当時はリハビリという仕事、そしてリハビリ助手という業務についての知識が全くない状態の中で、先輩方から丁寧に指導してもらい1日があっという間に過ぎていったことを思い出します。2年目は仕事の楽しさや厳しさを感じ、その日々の中で患者さんから「おっ頑張っているね」「いつもありがとうね」などの励ましの言葉を掛けて頂き、こちらが逆に患者さんから元気を貰い仕事のやりがいを感じました。3、4年目は後輩が増え、こちらが教える立場となりました。また他部署の職員との交流をしていくうちに多職種との情報交換の大切さと、人と人との関わりの大切さを知りました。こうして振り返ってみると自分一人ではなく周りの方々の支えがあったからこそ、5年目を迎えることができた実感しました。まだまだ社会人として未熟な部分がいっぱいありますが、これからも周りの方々への感謝の気持ちと入社当時の初心を忘れず、日々努力し成長していきたいです。

○薬剤科 佐々木綾

入職した頃は処方を出す医師の隣に座り処方内容等についてその場で確認をするということに戸惑ったものです。知識不足な私に薬を変更する際など院長先生が優しく教えてくださいました。いまでも教えていただくことはたくさんありますが、私から提案することもできるようになり、知識を増やせた5年間であったのかなと思います。明るくて頼れる上司や、他部署の方々にもたくさんのことを教わり経験させていただきました。これからは私もそうなれるよう努力していきたいです。不安と希望でいっぱいだったあの日から5年たったいま、まだまだ未熟さを痛感することも日々ありますが、これからも学び続け明野中央病院の一員として頑張っていきたいです。



○臨床工学科 都甲博史

早いもので入職してから5年という歳月が立ちました。振り返れば入職時は臨床工学科というものが無く、まずは他の科の方々に臨床工学科とは何なのか、それを意識付けることから始まり、徐々に機械管理、メンテナンス、トラブル対応の仕事も増え、頼っていただけるようにはなつたかなと思っています。まだまだ施設管理とME機器管理の区別化がうまくはできてないように見えますが、5年で臨床工学科というものが浸透はしたと思います。

今後は自分のスキルアップもちろんですが、日々進歩していく医療、それに伴って進化し続ける機器の知識を取り入れ続け、より良い情報を現場に届けたいと思います。

○看護部 外来 上妻千尋

私にとっての5年とは、出産・育児、病棟から外来への移動と環境が著しく変化していった5年でした。日々の業務の多さにつれていくの困難な状態でしたが、先輩方や一緒に働くスタッフに支えられ、ここまで来ることができました。入職した頃は、その日に習った業務を覚えるのに必死でメモ取っては自宅で復習をかねノートにまとめていく日々でした。仕事にも慣れ、割り振られた業務を1人でこなせるようになった時、嬉しかった事を覚えています。育児休暇をえて部署移動となった時は、育児をしながら新しい部署で仕事をこなせるのか等多々不安もありましたが、また一から勉強をしないおすい機会となりました。また、日々の慌ただしい中にも、外来でしか経験できないこともあり、学びを深める事ができました。5年目を迎え、年々求められることも多くなってきましたが、日々の業務を確実にこなし、今後は研修会などに参加して知識面を深めていくと共により良い看護の提供を目指して努力していきたいと思っています。

○看護部 2階病棟 佐藤えつ子

パートから時短へと勤務体制を変更し、5年が経ちました。制限のある勤務であるため、日頃より沢山の病院スタッフに協力を頂き大変感謝しています。職場環境に恵まれているおかげで現在もやりがいを感じ仕事に臨んでいます。また、私の身内が患者としてお世話になったことで、家族の立場からも明野中央病院の魅力をたびたび実感しました。

50歳を過ぎた現在「看護師としてあと何年続けられるだろうか」と、ふとさみしくなる事がありますが、大好きな看護師人生を、更に良い看護が提供できるように精一杯努力していきたいと思っています。



## 入職 10 年を振り返って

○総務課 首藤大樹

外科と整形外科と形成外科の違いがわからなかった職員も勤続 10 年を迎えました。10 年目の節目であった 2016 年度は病院の念願であった電子カルテの導入が行われ、佐藤医療情報部長指揮のもと、電子カルテ導入が理由での離職者を出すことなく円滑に導入ができたことは各部署長や職員一人ひとりの努力のたまものだったと思います。

プロフェッショナルの集合体である病院という組織の中で自分自身の知識や経験不足を感じる場面がまだ多く感じられます。年齢と勤続年数を重ね、一般的には中堅と呼ばれる位置に立っているはずですが実際には今年入職した新人の看護師には看護の知識や技術ではかないませんし、リハビリの新人職員に対しても同様だと思います。今回の電子カルテ導入で最も痛感した点はシステム側からの知識や経験だけでは現場の立場に立った最適な運用方法の選定が難しかったことです。幸いにも上司が看護出身者ということもあり医療の点に立った調整はお任せし、自分はシステムと機器の対応を中心に行い、無事システムの本稼働を迎えました。

今後は自分の得意分野を活かす一方で、ある程度別分野の知識が必要になる場面が増えてくるかと思います。医師や看護師、リハビリや放射線技師など病院内の知識や経験を少しずつ増やす一方で、病院外でも経営コンサルタントの方や会計の先生、医療機器を扱うメーカーの方など数多くのプロフェッショナルの方々とお会いする機会も多くあります。少しずつでも自分にできることを模索し、新たな知識と経験を身につけ先輩から学び、後輩を指導し、自分もプロフェッショナルの一員として誇れるような職員になっていきたいと思っています。

## 入職 15 年を振り返って

○リハビリテーション科 佐々木信弘

早いもので理学療法士となり 20 年以上が経過した。今一度、リハビリテーションに向き合うと人生に共通する部分が多くあると感じる。リハビリテーションは日々繰り返し行うことにより少しずつ結果が出てくる。昨日はここまで歩けた。今日は昨日の少し先まで歩けた。明日は……。人生も日々を繰り返すことで経験を積み重ね“今”があるわけである。昨日、昨年よりも“今”がどうあるかが大事であると感じる。そしていつも考える、少しでも前に進んでいる人生なのか、と。

今後も“人生はリハビリ”と考え、自分のペースでできることを少しずつ広げて、前に進んでいる人生を送りたい。同時に日々の繰り返しを大事にしていきたいと思う。



## 入職 20 年を振り返って

○看護部 3階病棟 芦刈初美

私が明野中央病院に入職したのは、31歳の時でした。3階病棟にパートとして働き始めました。慣れない環境に不安と緊張でいっぱいだった事を思い出します。平成8年より正社員となり20年が経ちました。院長・副院長・看護部の皆さんのおかげで今日があると感謝しております。この20年間外来では訪問看護を経験し、急性期病棟では整形外科の看護や知識、技術の習得に取り組む事ができました。現在回復期リハビリの看護師として3年目、病院の増改築と共に、電子カルテ導入となりシステム運用に慣れるように試行錯誤中です。今後は、回復期リハビリ病棟にて、専門的看護が提供できるように、スタッフと他部署と情報を共有し、患者さんが満足できる入院生活が送れる様に、頑張っていきたいと思っています。

## 入職 25 年を振り返って

○看護部 鈴木京子

1991年2月明野中央病院へ入職。准看護師の資格しかなかった私は、7歳、5歳、1歳の子供を育てながら、病院に勤務し看護師になるための専門学校に通いました。入職当時は内科の患者さんが主で長期療養の患者さんも多くいました。学校を卒業後、現在の院長、副院長が着任し、政策や時代の流れとともに当病院も大きく様変わりしました。病院での長期療養ができなくなり、当初はなかった整形外科の手術を行うようになりました。今では整形外科と麻酔科の医師の充実もあり、年間手術件数も多く、患者さんから期待される病院になってきたと感じています。個人的には、病院の変化とともに苦労しながら同僚と共に頑張ってきたこと、看護管理の勉強のため神戸での研修の支援をいただいたこと、多くの患者さんにありがとうと言ってもらえたことなど、たくさんの思い出ができました。頑張ってくれた子供達や支えてくれた家族、この25年間に出会えた方々に感謝しています。



○看護部 外来 池田直美

勤続 25 年を振り返って、思えば長いようであつという間の 25 年間でしたが、私には忘れられない出来事があります。それは 25 年前就職して間もない頃の出来事です。病棟で準夜をしていた時の事、ナースコールが鳴ってその部屋に行くと 80 過ぎのお年寄りの患者さんが「水を飲ませてほしい」と言うのです。先日重症の心不全で入院してきた患者さんでした。指示は絶飲食で口からは、食べたり飲んだりできません。「水を飲むと心臓に負担がかかるからダメなんですよ。その代わり点滴をしていますから」私は水が飲めない事を伝えましたが、「何とか一口だけでいいから飲ませてほしい」と懇願されました。何度もお願いをされ、どうしていいか分からず困ってしまいました。「お水飲ませてあげたい」でも先生の指示は「絶飲食」。

「じゃあ口の中をきれいに拭きましょう」、私がガーゼを湿らし口の中を拭こうとすると、よほど水が飲みたかったのか、チュウチュウとその湿ったガーゼを吸いだしたのです。準夜後の休みが明けて病棟に行くと、その患者さんはお亡くなりになっていました。水を飲ませてあげたかった。でも……私は看護師としてどうすれば良かったのでしょうか？時々あの患者さんや本当にどうしていいか分からず困った事を思い出します。今でも仕事をしているとどのように解決したらいいか分からなくなる場面があります。そんな時は、患者さんが満足いくより良い方法を選択するように心がけています。

今、外来では多くの患者さんが診察を待っています。もっと家から近い病院もあるでしょう。もっと待ち時間の短い病院もあるでしょう。それでもこの明野中央病院を選んで来てくださる患者さんに少しでも満足いく看護ができるようにこれからも頑張っていきたいと思えます。



医療法人社団唱和会 明野中央病院

---

事業報告書（2016年度）

2017年8月1日発行

発行／医療法人社団唱和会 明野中央病院

